
第13回 日本水大賞
2011日本ストックホルム青少年水大賞

受賞者へお祝いの言葉

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

第13回「日本水大賞」において、栄えある「大賞（グランプリ）」を受賞されました「特定非営利活動法人新町川を守る会」の皆様へ、心からお祝い申し上げます。

「新町川を守る会」におかれましては、「川を活かした町づくり」として、第3回日本水大賞「国土交通大臣賞」を受賞されてから10年、産官学民さまざまな組織と連携・協働しながらの活動をさらに大きく発展させ、従来からの清掃や各種イベントの開催、遊覧船クルーズに加え、文化的要素を含み昭和初期までの主要交通であった「撫養航路」を復活させるなど、市民の利用はもちろん観光客の誘致にも貢献されていることについて、新町川を中心とした「河川環境の保全」や「まちの賑わい創出」、都市の水辺を軸とした「まちおこし」の模範になると高く評価されたものと伺っております。

徳島県においては、「宝の島・創造とくしま」の実現を目指し、NPO法人をはじめ「新しい公共」による担い手創出や新たな県民との協働型「公共施設維持管理システム」の展開など、「協働立県とくしまづくり」を積極的に推進していくこととしており、本県にとりまして今回の受賞は、これら施策を推進していくうえで、大変喜ばしく心強い限りであります。

皆様におかれましては、今回の受賞を励みに、今後ますますご活躍されることをお祈りいたしますとともに、活動を支えられてこられた関係の方々のご尽力に心から敬意を表しまして、お祝いの言葉といたします。

平成23年6月21日
徳島県知事 飯泉 嘉門

祝 辞

第13回日本水大賞の「国土交通大臣賞」を受賞された「特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム」の皆様、誠におめでとうございます。

皆様は、荒川流域全域を対象として、1万人を越える参加者の方々とともに流域の清掃活動を行う中で、ゴミの数を数え、種類や位置を記録することにより、ゴミ発生の抑止や環境問題への啓発を行ってきました。国土交通省荒川下流事務所（旧建設省荒川下流工事事務所）を始め、沿川の自治体や学校、企業等が連携して行ってきた活動には、16年間で延べ11万6千人もの市民が参加したと伺っております。多くの市民と協働して進める皆様の活動は、これからの環境保全活動にとって、非常に良い事例であり、皆様の着実な活動と環境保全に対する志が高く評価され、今回の受賞につながったものと考えています。

現在、都においては、未曾有の被害をもたらした東日本大震災に対応して被災地への支援を行うとともに、高度防災都市づくり、都民生活と産業の再生に取り組んでいます。一方、従前からの成熟した都市を目指す「10年後の東京」計画も継続して進めており、都民との協働が重要な役割を果たすと考えております。

受賞された皆様におかれましては、今回の受賞を契機に、益々ご発展、ご活躍されることを祈念して祝辞といたします。

平成23年6月21日
東京都知事 石原 慎太郎

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

第13回日本水大賞「環境大臣賞」を受賞された「海をつくる会」、「審査部会特別賞」を受賞された「おさかなポストの会」、2011日本ストックホルム青少年水大賞「大賞」を受賞された「向上高等学校 生物部」の皆様、誠におめでとうございます。

「海をつくる会」は、水環境の改善に向けた約30年の長きにわたる海底や湖底などでの清掃活動、「おさかなポストの会」は、多摩川への外来種の密放流を防ぐとともに、預かった魚の飼育を通じた子供たちへの環境教育の実績が高く評価され受賞されました。また、「向上高等学校 生物部」は、徹底した調査により外来種の分布や繁殖原因を明らかにするとともに、外来種拡大防止に向けた情報ネットワークの構築への取り組みが高く評価されたものであり、栄えある大賞に輝きました。皆様の受賞を大変うれしく思います。

神奈川県では、多様な生物の生育環境や周辺環境に配慮した人と自然にやさしい水辺づくりを進めています。環境と共生する持続可能な都市の実現に向け、皆様の活動は大変有意義であり、県といたしましても、今後の活動に大きな期待を寄せています。

今回の受賞を励みに、今後ますますご活躍されることをお祈りいたしますとともに、活動を支えてこられた関係の皆様のご尽力に心から敬意を表しまして、お祝いの言葉といたします。

平成23年6月21日
神奈川県知事 黒岩 祐治

祝 辞

日野川の源流と流域を守る会の皆様、第13回日本水大賞「厚生労働大臣賞」の受賞、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

日野川の源流と流域を守る会におかれましては、平成14年の発足以来、500名超の産官学民の会員の方々が、持続的に連携・協働され、平成20年に制定された「日野川流域憲章」に基づき、森林の保全、河川の清掃、子供たちをはじめとする住民の皆様が参加される環境フォーラム及びたたら製鉄学習、奥大山古道散策等の文化伝承活動など、実に幅広く御活動いただき、水資源や水環境の保全に寄与していることが高く評価されたものと考えております。

鳥取県は神代の時代から大自然の恵みの名水が各地から湧き出しています。とりわけ、日野川の源流と流域を守る会が活動されている県西部地域は、秀峰大山の自然に抱かれた名水の宝庫です。

この貴重な水資源は日本一おいしい水道水の水源となっているばかりでなく、農林水産業や製造業等の産業にも大いなる恩恵を施しており、その保全や涵養は地域の大きな課題となっております。

県といたしましては、平成17年度から森林環境保全税を導入し、広く県民の皆様にご負担いただきながら森林の公益的機能を発揮する施策に取り組んでいるところでございます。

また、平成18年度からは企業の皆様と協働して「とっとり共生の森」の森林整備活動を展開させていただいており、現在では14企業の皆様と協定を締結するまでに発展し大きな成果を生み出しているところです。

今回、受賞されました日野川の源流と流域を守る会の皆様にも引き続き水源の涵養や保全に御尽力いただきますようお願い申し上げますとともに、これまでの継続的な御努力に心から敬意を表し、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成23年6月21日
鳥取県知事 平井 伸治

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

「ナマズのがっこう」の皆様、この度は、「第13回日本水大賞農林水産大臣賞」の受賞おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

今回の受賞は、ラムサール条約湿地伊豆沼・内沼の周辺水田を活動地として、水田と排水路をつなぐ水田魚道の研究を行い、構造・設置方法を考案したこと、また、外来種駆除や「ふゆみずたんぼ」等の取組を行い、環境保全型農業に実績を上げていることが高く評価されたものと伺っております。

環境保全に関する国民の関心が高まっている中、農業においては、農地による水源のかん養、多様な生物の生態系保全等に貢献する役割が期待されております。現在、宮城県では、「みやぎ食と農の県民条例基本計画」に基づき、環境保全を図りながら農業・農村の発展に全力を挙げて取り組んでおります。こうした中で、環境保全と農業の両立を図る皆様の活動がこのような賞を受賞されたことを大変心強く思いますとともに、このような取組が全国に広がることを期待しております。

今回の受賞を励みに、今後ますます御活躍されることを祈念いたしますとともに、活動を支えてこられた関係の皆様のお尽力に心から敬意を表しまして、お祝いの言葉といたします。

平成23年6月21日
宮城県知事 村井 嘉浩

祝 辞

小浜水産高等学校ダイビングクラブの皆さん、「第13回日本水大賞文部科学大臣賞」の受賞、誠におめでとうございます。

今回の受賞は、地元住民や漁業者、行政、研究機関等の方々と協力して、アマモ（海草）場を再生する活動を行い、アマモ種子の発芽率を向上させたこと、また、出前授業や学会発表で科学に対する意識向上に貢献したことが高く評価されたものとお聞きしています。

アマモは、光合成による二酸化炭素の吸収や底質の改善、海洋生物の産卵場として重要であり、2005年からの活動により約1000㎡のアマモ場が再生されたこと、アマモの研究において新たな知見や技術の確立を得たことは、海洋環境の保全に大変有益であり、皆さん方のご努力に心から敬意を表します。

福井の美しく豊かな自然環境は私たちの誇りであり、将来にわたって価値を生み出す大切な自然資本でもあります。今後も福井の海や川を守り育てるためにご尽力いただきますようお願いいたします。

皆さんの活動がさらに大きく広がっていくことを期待いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成23年6月21日
福井県知事 西川 一誠

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

第13回日本水大賞経済産業大臣賞を受賞された磯村産業株式会社及び磯村豊水機工株式会社の皆様へ、心からお祝い申し上げます。

このたびの受賞は、皆様が明治43年の創業以来100年の長きにわたり、自社所有の1100haにも及ぶ広大な水源涵養保安林の保全活動を通じて、治水、治山や良質な水道原水の安定供給等、公益的に大きな役割を果たされてきたことが高く評価されたものであります。

群馬県では本年3月に、「群馬県環境基本計画2011－2015」を策定し、水源涵養機能等の高い森林づくり、森林環境の保全を県が取り組むべき重点施策として位置づけています。

こうした中、浄水処理や植林事業という企業活動を通じて、健全な水環境、水資源の確保に努めてこられた皆様が、今回栄えある賞を受けられましたことは、本県にとりましても大変心強く、誠に意義深いことであると思います。

結びに、今回受賞された磯村産業株式会社及び磯村豊水機工株式会社の皆様の長年にわたるご努力に心から敬意を表しますとともに、今後も末永く水源涵養保安林の保全活動にご尽力いただきますようお願い申し上げます、お祝いの言葉といたします。

平成23年6月21日
群馬県知事 大澤 正明

祝 辞

「松代町河川愛護会」の皆様、栄えある第13回日本水大賞「市民活動賞」を受賞されましたことに心からお祝い申し上げます。

長野市松代町は、武家屋敷や神社仏閣などの貴重な文化財が今に伝えられている松代藩真田十萬石の城下町で、町並みの保全などの町づくりとともに、水害のない安心して暮らせる地域づくりにも取り組まれております。

このたびの受賞は、「地域の河川は地域で守る」をスローガンとして、長年にわたり地域が一丸となって河川愛護活動に貢献されてきた御功績が高く評価されたものと思います。

四季折々の美しい風景を映し出す河川、溪流や田園地帯などの恵み豊かな自然環境は長野県の誇りであり、その自然を後世に伝え、災害のない安全・安心な社会を構築していくため、長野県では多様な主体との協働による県づくりに取り組んでいるところです。

貴会による取り組みは本県各地で活動されている多くの団体の模範となるものであり、こうした取り組みがさらに大きく広がっていくことを期待しております。

松代町河川愛護会の皆様方におかれましては、今回の受賞を契機として今後ますますご活躍されることをお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成23年6月21日
長野県知事 阿部 守一

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

「第13回日本水大賞」において国際貢献賞を受賞された『紫川を愛する会』の皆様へ、心からお祝い申し上げます。

このたびの受賞は、かつて「死の川」と呼ばれた紫川を再生した環境改善活動等のノウハウを生かし、フィリピンの河川浄化に努められた点や「アジア水の輪ネットワーク」を構築しNPO間の連携を深められたことが、民間NPOによる国際貢献活動として高く評価されたとお聞きしています。

皆様の高邁な精神と地道な活動に対しまして深く敬意を表するものです。

福岡県では、流域が一体となった県民参加による川づくりを目指して、「水」に関わる活動を行っているNPO法人や企業、学校、行政間の「交流」と「連携」を図る「ふくおか水もり自慢！」や、河川愛護団体や県を中心に河川の一斉清掃を行う「ふくおか川の大掃除」を実施しています。

こうした中、県内に拠点を置く団体が海外で高く評価されたことは、他団体の模範となり、また大きな励みになることと思います。

今回の受賞を契機としまして、皆様の活動が今後ますます発展し、さらに飛躍されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成23年6月21日
福岡県知事 小川 洋

祝 辞

第13回「日本水大賞」において、「未来開拓賞」を受賞されましたつくば市教育委員会の皆様へ、心からお祝い申し上げます。

「つくば市ヤゴ救出大作戦」は、市内の全小学5年生を対象に、学校のプールに生息するヤゴ等の水性生物の観察・飼育を通じ水環境について考える取組みで、平成14年度の開始以来、学習に参加した子ども達は約1万8千人にのぼります。

この活動では、ITを活用した観察記録の共有や他校との交流学习、さらには「水みらい21児童シンポジウム」において観察記録の発表等が行われるなど、将来を担う子ども達に対し、水環境問題に関する意識の高揚が図られたことが高く評価されたものと伺っております。

茨城県は水面積の割合が全国第2位と水際線が長く、良好な自然環境が残されています。この環境を守り、次世代へ引き継いでいく観点からも、つくば市における取組みは非常に意義深いものがあります。このたびの受賞を契機として、こうした取組みが広がっていくことを大いに期待しています。

結びに、つくば市教育委員会の皆様方のこれまでの活動に敬意を表しますとともに、今後益々の発展とご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成23年6月21日
茨城県知事 橋本 昌

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

松蔭高等学校Blue Earth Projectの皆さん、「第13回日本水大賞未来開拓賞」の受賞、本当におめでとう。

「持続可能な水環境の実現に向け、身近なところから行動を起こしていこう」。そのメッセージを元気に明るく発信してきた皆さんの活動が高く評価されての受賞です。300以上の店舗訪問によるユニセフ「TAPプロジェクト」への協力依頼。街なかでの啓発イベントの開催、企業への節水商品の提案。意欲あふれる取り組みの数々に、心から拍手を贈ります。

水はすべての命の源であり、私たちの生活や産業を支える最も大切な基盤です。しかし、地球規模の気候変動や経済活動の拡大により、渇水や水環境の悪化が危惧されています。

兵庫県は、水が美しく循環する県土の実現をめざし、大切に使う、自然の浄化機能を高める、水辺に親しむなど、県民の皆様とともに幅広い取り組みを進めています。

それだけに、明日を担う高校生の皆さんが、水の大切さを訴え、環境を改善していこうと活動されていることは、本当にすばらしいことです。これからも夢と目標をもって、果敢に行動されることを期待しています。頑張ってください。

平成23年6月21日
兵庫県知事 井戸 敏三

祝 辞

県立宮古総合実業高等学校 環境班 の皆様、栄えある「第13回日本水大賞未来開拓賞」の受賞、誠にありがとうございます。

宮古島は、生活用水の全てを地下水に頼る島であるため、地下水の保全が重要な課題となっております。

皆様は、この生活に欠くことのできない「命の水」の保全という大きな課題に情熱を注ぎ、サトウキビと日本そばを組み合わせた斬新な栽培方法による地下水の水質維持と農業の更なる発展を期待させる取り組みを行ってきました。

この取り組みは、水環境の改善だけにとどまらず、地域活性化として大きな役割を担う素晴らしいものと思っております。

また、雇用の促進、地産地消の促進、環境教育の実践等、次の世代への波及効果は大きく、未来へ希望を与えてくれます。

今回の受賞は、100年先をも見据えた皆様の積極的な研究姿勢とその成果が高く評価されたものと思っております。

若さあふれる行動力と柔軟な思考が、新しい未来を拓きます。皆様が今後ますます活躍されることを祈念し、お祝いの言葉といたします。

平成23年6月21日
沖縄県知事 仲井眞 弘多

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

「第13回日本水大賞・審査部会特別賞」を受賞された高橋和彦・恵子御夫妻に、心からお祝いを申し上げます。

このたびの受賞は、御夫妻が24年間の長きにわたり、自然観察会をはじめ、小中学校への出前授業やガイドブックの発行など様々な環境教育活動を続けられ、佐鳴湖に多様で豊かな自然が残されていることを流域住民に知らしめたことが高く評価されたものと伺っています。

佐鳴湖の水質は近年改善の方向に転じており、平成21年度には海水や河川の汚れの度合いを示すCOD（化学的酸素要求量）の値が初めて8mg/Lを下回り当面の改善目標を達成するなど、30年間続いた湖沼水質全国ワースト5からもようやく脱却することができました。これは、湖の底に堆積した泥の浚渫や下水道整備といった行政の取組だけでなく、事業所や農地等における汚濁負荷の軽減、地域住民による生活排水の改善やクリーン作戦など、地域が一丸となった取組の大きな成果です。その中であって、御夫妻が様々な市民活動の草分け的存在として、佐鳴湖本来の美しい環境を取り戻すための活動に自発的に継続して取り組まれてきたことに対し、深く敬意を表します。

今回の受賞を機に、御夫妻がますます御活躍されるとともに、佐鳴湖を愛する人々が更に増え、豊かな自然と人々の触れ合いがあふれる水辺環境が再生されることを祈念して、お祝いの言葉とします。

平成23年6月21日
静岡県知事 川勝 平太

祝 辞

高川学園中学・高等学校科学部の皆さん、「2011日本ストックホルム青少年水大賞優秀賞」の受賞、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

今回の受賞は、本県での生息がほとんど確認されず、学術的な研究も遅れてきた特別天然記念物のオオサンショウウオについて、実証的な調査による生息環境の特定や、調査に基づく河川整備の望ましいあり方等についての提言が、河川環境を保全するための総合的な体制整備に大きく貢献すると評価されたものと伺っております。

また、皆さんにとっては、カスミサンショウウオの研究による「2008日本ストックホルム青少年水大賞審査部会特別賞」に続く受賞であり、河川環境の復元や保全についての皆さんの長年に渡る研究の積み重ねが今回の受賞につながったものと考えており、心から敬意を表します。

本県では、多自然川づくりを目指して、ホタル護岸の整備や、「水辺の小わざ」と名付けた簡易型魚道の設置に代表される小規模で効果的な水辺の改善事業を行っているところであり、河川環境の復元や保全に関する皆さんの研究の成果を、今後の河川整備の参考とさせていただきたいと考えております。

今回の受賞を契機として、高川学園中学・高等学校科学部の皆様が今後ますます御活躍されることをお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成23年6月21日
山口県知事 二井 関成